

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2775300524
法人名	株式会社 ライフパートナー
事業所名	グループホーム アムール高石
所在地	大阪府高石市加茂2丁目6番6号 (電 話) 072-266-3867
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年9月11日

【情報提供票より】 (平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	15人, 非常勤 6人, 常勤換算 11.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (180,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575 円			

(4) 利用者の概要 (平成20月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	0名	要介護 2	2名		
要介護 3	10名	要介護 4	4名		
要介護 5	2名	要支援 2	0名		
年齢	平均 84 歳	最低	54 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岸和田徳州会病院、高石藤井病院、坂本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームアムール高石」は南海本線高石駅から徒歩12分のところにあり、周囲は閑静な住宅街で落ち着いた雰囲気のなかにある。2ユニットからなるグループホームで、「愛の我が家のような生活をめざします。自由な環境を創造します。安心と信頼のホームを実現します。」を理念として、利用者と職員が家族のような関係を築けるようコミュニケーションを図り、団体生活のなかで個性性を発揮できるケアを行っている。利用者一人ひとりの個性表を作成するとともに、毎月ユニット毎に一人の利用者を強化個別ケア月間者として「個別性確保のアンケート」を職員が作成しケアを行っている。地域との交流にも注力しており、地域での催し物へも利用者が参加して

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価では年間の研修計画の作成ならびに定期的な避難訓練の実施が課題として提起されていた。これらの課題については研修計画を作成し職員に受講を促しており、非常災害時の避難訓練も定期的実施するとともに消火設備の点検も行うなど改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は管理者、ユニットの主任、職員で話し合いを行い、現場でのきめ細かなケア内容を検討することで、提供する介護サービスの更なる改善の機会として実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1度、利用者の家族、地域校区委員、自治会役員、地域支援センター職員、社会福祉協議会職員などが参加して開催している。会議では利用者の利用状況、行事などの報告、地域の行事情報の交換などを行っている。その情報を基に地域の運動会に参加したり、災害時には事業所を地域の避難場所として活用していただくよう提案している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	入居契約時には苦情・相談窓口や担当者などを説明しており、運営推進会議への家族の参画を促すとともに、毎月「アムール便り」の発行などを行っている。さらに、利用料金の支払いを窓口支払いとしており、家族との面談の機会を増やす工夫をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の自治会に加入し、美化活動や防災訓練、青色防犯パトロールなどに参加し、日頃から地域の方々との交流を図り理解が得られる取り組みをしている。さらに、地域密着型サービス連絡会を発足させ、高齢者見守りプラン(SOSネットワーク)にも力を入れて地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した生活が継続できることを目的とし、理念をかがけ実践している。玄関前にあるオープンテラスで朝、夕の登下校の子供たちや犬の散歩をしている近隣の方が声をかけ合ったり地域に根ざしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は家族に説明し、「アムール便り」に掲載し理解を求めている。衣食住に楽しみや遊びの要素を取り入れ、自由な生活を支援したいという管理者の熱い想いに共感し職員も充実したケアの提供を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し美化活動や青色防犯パトロールに参加し、普段の生活の中で地域から理解が得られるようにしている。また、地域密着サービス連絡会を発足させ、高齢者見守りプラン（SOSネットワーク）にも力を入れ地域との連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ユニット主任、職員で話し合いを行い、現場でのきめ細やかなケア内容などを検討することで、提供するサービスの更なる改善の機会を増やし、質の向上を目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族、地域校区委員、自治会役員、地域支援センターや社会福祉協議会職員が参加し、3か月毎に開催している。地域の小学校の運動会に招待されたり、災害時などには事業所を地域の避難場所として提供することなど会議の中で提案している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が高石市地域包括ケア会議にグループホーム連絡会代表として参加し、情報交換を行っている。月に一度は、利用者の情報を市担当者に提出し連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度「アムール便り」を発行し、その中で各種行事や実施状況の報告を行っている。家族が定期的に面会に来られるように利用料金を振り込みではなく窓口支払いとし、面談の機会を設け現状を伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情・相談窓口や担当者を説明し、玄関入り口には意見箱を設置しており、運営推進会議にも家族の代表が参加するなど、意見を聴く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時以降離職者は少なく利用者にとって職員と馴染みの関係を継続している。職員同士の信頼関係も深め、目標をひとつにすることで離職を防いでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大阪社会福祉協議会の平成20年度研修計画を参考にし、職員のレベルに応じた研修に参加できるように年間計画を作成している。研修関係ボックスがあり、学びたい研修があれば職員が自発的に参加できるように配慮し、経験の浅い職員のレベルアップにも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの閉塞性を防ぐために、高石市の他のグループホームと地域密着型サービス連絡会を発足させて、お互いの情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用の制度はないが、家族と面談時に希望や考えを話し合っている。併設している小規模多機能型居宅介護事業所を利用しての入居となることが多く、職員と顔馴染みの関係がある程度できている。入居当日はウエルカムメニューと称し、その方の好きなメニューを提供することで緊張をほぐしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「個別性の獲得シート」を用い利用者の生活歴や職歴などの把握に努め、見守りなどを行いながら前向きに取り組めるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が担当制になっており、じっくりと観察していくなかで利用者の思いや希望をそれぞれの生活の場面で受け止めている。意思疎通が困難な利用者に関しては、生活歴や「個性表」から把握し職員同士が情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に職員、ときには家族を含めて話し合いを行っている。職員の日々の細かな気づきや取り組みを記入し、職員間で情報交換を行い、大阪認知症高齢者グループホーム協議会版のサービス計画書を用いて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は目標に対して、日々の対応が適切であるか否か経過観察しており、必要に応じて随時見直しを行っている。大きな変化のある利用者に関しては、家族が話し合いに参加している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的には毎月の命日に居室にお寺さんが訪問し供養したり、お墓参りに出かけたり、買い物、喫茶店、カラオケなどその人らしい生活を送ることができるように対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。受診予定をスケジュール表に明記しており、職員全員が把握している。事業所の協力医療機関とも密に連携をとり健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と話し合いを行い看取りを行うことに関して説明、同意書を取り交わしている。協力医療機関の医師や訪問看護師と終日連絡が可能な体制をとり緊急時のフローチャート、対応マニュアルを作成することで、家族、職員が情報を共有し安心して終末を迎える支援ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の規定を玄関前の掲示している。利用者の誇りやプライドを損ねることのないようにさりげない声かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活習慣や希望、ペースに合わせる配慮ができています。無理強いをせず起床、就寝、入浴など臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の呼びかけにより盛り付けをしたり、男性の利用者も調理の手伝いを楽しみながら行っている。献立の中に「お楽しみ」を取り入れ利用者に食べたい物の希望を聞き、皆と一緒に楽しみながら作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間帯に入浴を行っている。季節を感じ入浴が楽しめるように菖蒲湯、ゆず湯などの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「個別性の獲得シート」を用いその方に応じた配慮をしている。男性であれば植木の手入れ、水やりなどそれぞれ役割を持った生活ができている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、地域の行事に参加するなど積極的に外出の機会を作っている。誕生日には、その方の希望する事や興味のある事、希望する場所に職員と外出したりしている。重度の利用者には、マッサージ、アロマを用いたりフレクで気分転換を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	住宅地ではあるが、幹線道路に面しており、安全面を考慮し二重ドアになっている。外側のドアは施錠しているが、内側は開放しており、家族には説明し了解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との避難訓練や消防設備士が消火器や非常ベルなどの点検を行い使用方法などを職員に伝達している。運営推進会議で地域の方々との協力体制を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立が作成されており、摂取量や水分量はそれぞれ個別に把握しており、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のオープンデッキにはテーブルと椅子を設置し、外気に触れ、季節を感じくつろげる空間を設けている。リビングには、ソファで安心できる居場所が作られている。蓄音器、熱帯魚など利用者の生きてきた時代背景に配慮した設備を置くなどの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのタンス、手芸品、仏壇、以前に旅行に行った写真、アルバムなどが持ち込まれている。家族の協力が得られない利用者には、誕生日のプレゼントとしてタンスや椅子を提供することで、その人らしい生活空間が作られるように工夫している。		

※  は、重点項目。